

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和3年度第2回西脇市上下水道事業審議会
開催日時	令和3年10月6日（水） 午後1時30分～3時00分
開催場所	西脇市市民交流施設1階 つながるスタジオ
出席委員の氏名又は人数	長峯委員、岡本委員、時政委員、見坂委員、臼井委員、藤原廣司委員、内橋委員、藤原悟委員、今中委員、足立委員
欠席委員の氏名又は人数	なし
出席職員の職・氏名又は人数	黒坂技監、田中部長、内橋課長、伊藤課長、藤本補佐、後藤補佐、松原補佐、吉山主査、藤原
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	0人
議題又は協議事項	1 議事 (1) 会議録署名委員の指名 (2) 水道ビジョン・経営戦略の改定について (3) 下水道事業経営戦略の見直しについて
会議の記録（概要）	
発言者	別紙のとおり
問合せ先	西脇市建設水道部経営管理課 TEL 0795-22-3111 FAX 0795-22-8573
委員の署名	
(会長) <u>長峯 純一</u> <u>見坂 康恵</u> <u>藤原 悟</u>	

会議の記録（概要）

発言者

会長

○ 開会

本日の審議会の会議録署名委員に見坂委員と藤原悟委員を指名します。

○ 今回の審議会について事務局から説明

○ 水道ビジョン・経営戦略の改定について事務局から説明

会長

補足しますと、水道ビジョンについては厚生労働省が国の基本方針、基本理念を掲げています。西脇市では、国の方針に合わせて水道ビジョンとその下に経営戦略を作っており、二段階の構成になっています。下水道については、ビジョンに当たるものは策定しておらず、直接、経営戦略のみが作られています。

今回、水道では、水道ビジョンと経営戦略を合わせて見直し策定をするということです。委託業者に基本資料を作成してもらい、それを基にこの審議会で議論するという流れです。今日の説明によれば、前回の水道ビジョンの検証を踏まえて、国が「持続」「安全」「強靱」という3つの新しい基本理念を掲げたこと、西脇市でも一番上の目標にその言葉を盛り込んだ形で、ビジョン及びそれを具体化した経営戦略を策定するということです。

次回以降、資料が出てくるので、それを踏まえて議論していくことになります。

また、使用水量のグラフ、現状西脇市で各世帯が水道水をどれくらい使用しているかというグラフですが、どこの市町でも契約はしていても実際には水を使っていない世帯が5%くらいはあるということです。空き家になっているとか、違う場所にお住まいなのかも知れませんが、料金だけ支払っている世帯が増えてきています。

西脇市は基本水量が20m³で、この水量内であれば0m³であろうが20m³であろうが同じ料金になります。この基本料金の中に35%の世帯、三分の一以上の世帯が

収まっています。全体的にみると、各世帯の水使用量がだんだん減ってきている傾向が、どの自治体でもあるようです。家族数が減ってきていますし、節水も進んできているということで、どこの市町もこの基本水量の見直しをしているところです。

各市の状況では、西脇市の基本水量は20^m³ですが、他市では0^m³、10^m³、20^m³のだいたい3グループに分かれています。基本水量0^m³の場合、1,000円とか2,000円の基本料金はありますが、料金がフラット（一定）の部分はなく、使った量に合わせて少しずつ上がっていく形です。少量しか使わない世帯が増えているので、0^m³に変える市町や、20^m³では幅が広すぎるので、10^m³に引き下げる市町も出てきています。

仮に20^m³使用した場合の水道料金の比較では、他市に比べると西脇市は高いところにあり、その倍の42^m³使用した場合でも割と高いところにあります。多可町もまた、同じような傾向で高くなっています。

こういった水道料金についてどのように考えたらよいのかということも、今回の水道ビジョン・経営戦略の改定の中で、皆さんに議論していただくことになるかと思えます。いくつかの資料、提案が示された上での議論になると思いますが、次回以降の議論のために現状の説明がなされたということです。

○ 下水道事業経営戦略の見直しについて事務局から説明

会長

補足しますと、下水道経営戦略は平成29年度から令和8年度までの10年間の計画で、現在動いています。水道の計画とは時期がずれていますが、下水道は10年計画の5年目に入っており、後期5年間に向けて見直しが必要かどうかということを経験いただきたいと思います。

今の説明にありましたが、西脇市では前期の計画と実績値を比べて検証したところ、それほど大きなずれはないということです。数字によっては計画以上に進んでいたり、改善したりという場合もあるようですが、後期に向けて見直しをしなくてもよいのではという判断を事務局はしているようです。そのことについて

て、審議会で議論いただきたいということです。

水道と大きく違うのは、一般会計からの繰入があるということです。独立採算部分で発生する赤字もありますが、雨水対策については一般会計の負担となっています。それを含めて一般会計からの繰入があります。下水道事業としては赤字になっていなくとも、一般会計からの繰入額はできるだけ少ないほうが望ましいので、その部分についても努力していくということが書かれています。このあたりが水道とは違う部分です。

細かい数字も出てきましたが、こういう議論の機会はありませんので、疑問点や分からない点などありましたら、質問していただけたらと思います。

委員

下水道料金について、兵庫県下29市の中で西脇市は高水準であるとありますが、低い水準の方が当然よいと思います。それを求めて行政も努力されていると思います。下水道については、まだ汚水管の更新工事をしなくても大丈夫であることを説明いただきましたが、その中で西脇市はなぜこのような高水準を保っているのかということに疑問に思います。そういったことをもう少し詳しく説明していただきたい。

事務局

本市では、公共下水道については流域関連公共下水道にしており、この公共下水道が人口の7割以上を占めています。25万人分の処理が現在、小野市で行われております。本市の中でも、公共下水道が、将来における処理費という点で一番安くなります。

他市との比較では、汚水処理量すなわち水道の使用量ということになります。西脇市では水道の使用量は平均で申しますと1万トン余りで、汚水の流れる量もほぼ同じということになります。他市では、本市の1.3倍から1.5倍とかなり多い量でございます。

そういった中でまず1点、処理費において他市に比べて非効率ということです。それから、流域関連公共下水道だけをとらえると、西脇市は他市に比べて不利な状況にあります。というのは、最上流部にあるため、管路延長をかなり長くしなければならないからです。接続するところは最下流部、平野になるので、そ

こから上比延などの上流まで市単独で引っ張っていかなければなりません。

例えば、小野市であれば、流域下水道が費用を出して布設する幹線が、街中に走っており、それに接続すれば済みます。具体的なこととなりますが、浅いところで管に接続することができ、工事費が安く済みます。西脇市では、一番深いところで15mくらいありますが、いろいろな工事の関係で、ポンプもたくさん使っています。そういったことで、他市に比べて流域の中では不利な条件で、工事費がたくさんかかっており、他市に比べても高いということでございます。

もう1点は、使用料の問題で若干高いということですが、小さな町に比べればそんなに変わるものではないと思います。流域の中でも、加東市、加西市とも下水道料金ではそんなに大きく違っておりません。そういった中で高くなっているのではないかと考えていますが、一つ申し上げますと、将来において他市町は今後使用料を上げていくのではと推察されます。今後、老朽管等の更新費用は本市よりも早く必要になってくるのではと思っております。

委員

工事費が高かついたということは、初期投資費用の観点でいうと、もう償還は終わっているのではないかと、そうした場合に、見直しはしないという決め方はどうなのでしょう。

事務局

工事費の起債の償還ですが、5年据え置き25年償還となっており、工事のピークが平成18年頃で、それから30年となりますと、令和18年度までは償還が続くというものです。そういった中で、見直しはしないのかというご指摘がありました。起債の償還計画についても前回立てた計画どおりに進んでいるということと、統合によるコスト縮減以外にはないと考えておりましたが、その方向的なことに対しまして間違いはないという検証結果が出ております。それに向かって、いかに経営の効率化を進めるかということで、数字の修正はしてまいります。前回の計画と大きな方向転換はないと考えておりますので、本日の説明をさせていただきます。

会長

コストの説明はありましたが、サービスの水準の説明があまりなかったと思いますが、西脇市は下水道施設が他市よりも新しく、老朽管の更新も進んでおり、そういう意味ではサービス水準も高くなっています。先に投資をしてきているので、その負担が使用料に反映されているという可能性があります。今回見直しをしなくてもよいというのは、もう投資を終えているので、値上げはしなくても当面は乗り切れるのではないかということかと思えます。ただ、少し前に投資したのも、老朽化する時期は来ますので、その時期には見直しが必要かも知れません。

西脇市では公共下水道と特定環境保全公共下水道、それと農業集落排水が一部残っているということですが、この農業集落排水はゆくゆく公共下水道に統合していくということですね。

事務局

旧西脇市では、9つの処理場をすべてなくしてしまうということを進めています。旧黒田庄町では、4つの処理場を1つにすることを進めています。

会長

公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水と別立てで事業を行ってきたこと、地形的な違いから旧西脇市と旧黒田庄町でつなげるメリットがなく別々でやってきたということで、コストが高くなっているという可能性もあると思います。国では、公共下水道を推進していますが、狭いエリアで小さなプラントで処理するのと、大きなエリアで公共下水道によって処理するのと、どちらがコストが安いかという点が議論になるところかも知れません。広いエリアで一括して処理するということは、処理場としては非常に効率的ですが、一方で管渠を長い距離布設しなければならず、そのコストは逆に高くなります。トータルに考えたときに、西脇市としては難しい判断かも知れませんが、今は国の方針に従って、加古川流域全体で下水道は一括処理をしようということなので、それを先んじて進めてきたことでコストが高くなっている、という理解でよいですね。

委員

コストのことをいろいろおっしゃっていましたが、

基本的なスタンス、考え方についてお尋ねします。10年計画の中で5年が終わり、更に残り5年があるから数字等々見直していったらどうかということで、今回の議論であると思います。説明にありましたが、西脇市については残念ながら人口減少は避けて通れないということで、令和22年には29,823人になるだろうということになると、設備をある程度維持していくための収入が減ってくるのではないのでしょうか。やはり、現状のサービスを維持していくためには、ただコストが安いからよいということではなく、きちっとしたサービスを将来にわたって継続してやっていくということの基本理念にして、こういった資料は策定されるべきではないかと思います。そういったことを考慮した上で、下水道事業をされているのでしょうか。

会長

人口減少については、どこの市町も厳しい課題ではありますが、今回5年間の後期計画の見直しという中で、その先の10年後、20年後と人口が減少していくところまで視野に入れて計画が作られているか、後期5年間の計画にもそういったことを反映できないか、というご意見でしょうか。

委員

もう少し言いますと、5年とか10年スパンではなくて、人口減少というのはずっと継続していく問題であると思います。右下がり人口が減っていくということは、どの計画を立てるときにも念頭に置いて考えるべきだと思うのですが。

会長

この5年間も少しずつ減っていくと思いますが、その点は織り込み済みですね。

事務局

将来を見ていないのかということですが、将来の人口減少についても見ております。

今、ご質問いただいた点は、非常に重要なポイントだと思っています。やはり、将来を見据えて安定した経営とか計画というものが、大事になります。そういう意味では、今回の経営戦略という観点で10年間のスパンで議論をさせていただいております。下水道計画というのは、都市全体を見て将来人口も推計しまし

	<p>て、20年、30年を見据えた中で、当面の10年間の人口がこうなるから、それに対する当面の事業計画の中で整備内容を具体的に計画してやっています。その全体像というのは全体計画ということで、今申しました20年、30年先を見据えたフレームの中であり方を見ています。</p> <p>その中で、下水道のサービスの安定的な確保という観点でいえば、農業集落排水を統合して下水道に取り込む、そうすることによって処理場が減ります。設備の更新が不要となってくる、その間の管渠は増えますが、そういうことによって持ち出す支出を抑えることができます。人口減少による収入減はあるかも知れませんが、持ち出すものも減っていくということで、その辺りのバランスを見ながら、今ご指摘いただいた将来人口の減少も見据えて統廃合するということ、最も効率的であろうということを進めております。引き続き、そういう視点をもって進めてまいりたいと考えております。</p>
会長	<p>収益的収入の特別利益について、経営戦略の値よりも実績値の方がかなり額が大きいです。内容はどうか。</p>
事務局	<p>当初見込んでいなかった資本剰余金の処分に伴う長期前受金過年度分の収益化等により、実績値が大きくなっています。</p>
会長	<p>他にも若干プラスマイナスが出ているところもありますが、大きな食い違いではないという判断ですね。</p> <p>下水道事業経営戦略の見直しについて、事務局案としてはこの形で、今年度までが前期なので、この令和3年度の数字が確定してくる段階で数字の多少の変更はあるかと思いますが、後期に向けての経営戦略については大きな変更をしないということで、この見直し版で了解いただければ、次回からは水道ビジョン・経営戦略の改定の方に集中して議論を行いたいと思います。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>

会長

では、仮で了解いただいたということで、最終的に両方揃った段階で、水道、下水道合わせてお諮りしたいと思います。

○ 今後の日程について事務局から説明

(閉会)

